

平成25年度 後期学校評価アンケート

～よりよい学校にするために～

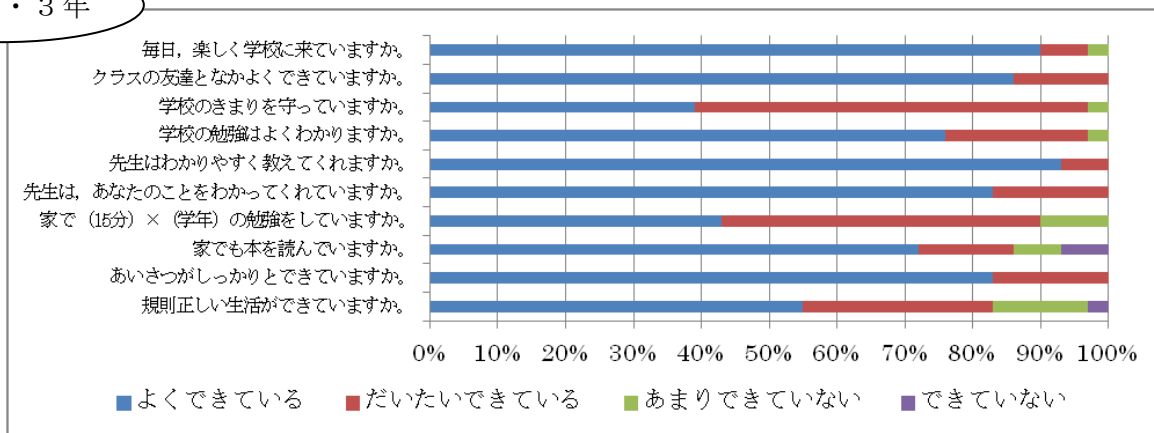
集計結果について

春まだ浅く、風に冷たさが感じられる今日この頃です。平素は、本校教育推進のためにご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

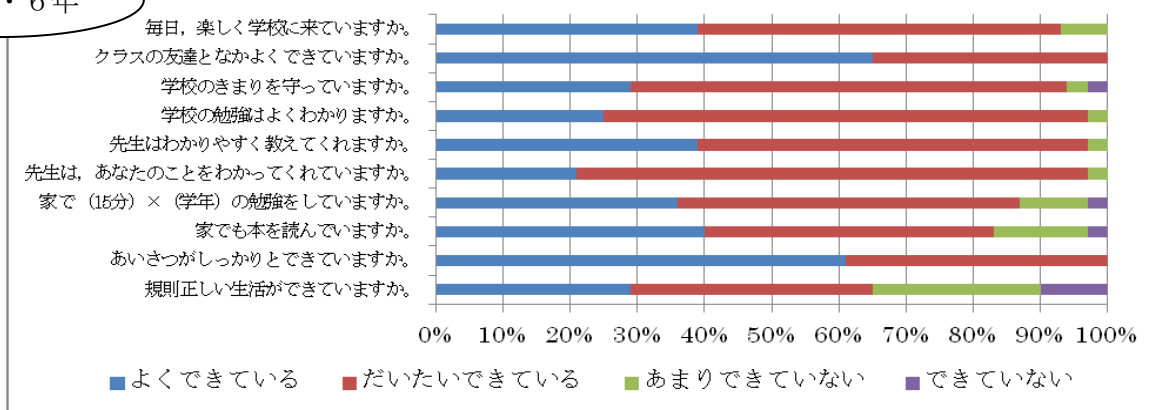
さて、本校の教育活動をより充実させるために、今年度10月からの学校生活について、児童・保護者を対象にしたアンケートを実施いたしました。結果についてまとめましたので、お知らせいたします。子どもたちの学校生活をよりよいものにするために、後期の活動を見直すと共に、来年度の活動に生かしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

児童の自己評価から

1・2・3年



4・5・6年



<考 察>

学校生活について

今年度から作った「みんなが楽しく過ごせる八瀬小学校にするための10のやくそく」を、後期でも意識した生活をするようにしています。朝会での学校長のお話や、学級活動である「ともだちの日」でも実践してきました。「毎日、楽しく学校に来ている」の項目は、「楽しい」「ほほ楽しい」という肯定的な意見が9割以上あり、全体を通して仲良く学校生活を送っていることが分かりますが、低学年児童と高学年児童を比較すると、低学年の9割の児童が「楽しい」の回答をしているのに対して、高学年では、4割に減っている点が気にかかるところです。

学習について

9割以上の児童が「わかる」「だいたいわかる」と答えています。ただ、「わかる」については、やはり高学年で数値が下がります。学習が難しくなるという理由もあります。それに対して低学年は、前期よりも「わかる」と答えている児童が増えました。

家庭学習・読書

家庭学習については、ほぼ前期同様の回答になっています。読書については、低学年での家庭読書をする児童が増えたことが分かります。逆に、前期同様、「読んでいない」という児童もいることが分かります。

規則正しい生活について

「できる」「だいたいできる」の肯定的な意見が、前期低学年が9割ありましたが、後期には8割強、前期高学年が7割5分に対して後期は6割5分と、全体に1割の低下となっています。また、低・高共にできていないと答えている児童がいることが気になります。

みんなが楽しく過ごせる八瀬小学校にするための

10のやくそく

1 人を笑顔にさせるあいさつをしよう

あ かるく い つも さ きに つ づけよう

2 相手の目を見て話そう

3 「聞いているよ」を態度で表わそう

4 だれにでもていねいな言葉で話そう

5 人がいやがるようなことはやめよう

6 だれであっても、仲間はずれにしない

7 いやなことがあったらきちんと言葉で伝えよう

8 苦手なことこそ勇気をもってチャレンジしよう

9 決めたことは最後までやりとげよう

10 自分のもの、みんなのものを大切にしよう



保護の評価から

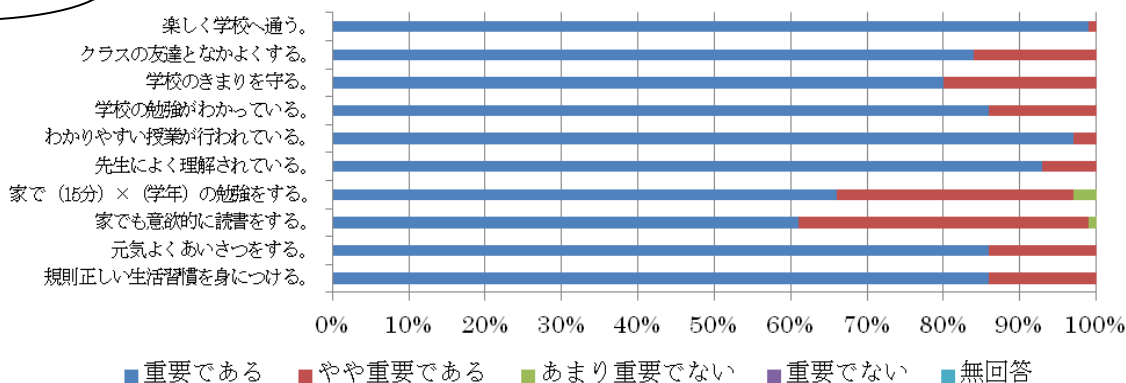
保護者の皆様には、「重要度」と「実現度」と二つの項目からアンケートを取らせていただきました。

「重要度」・・・どのくらい重要だと思うか

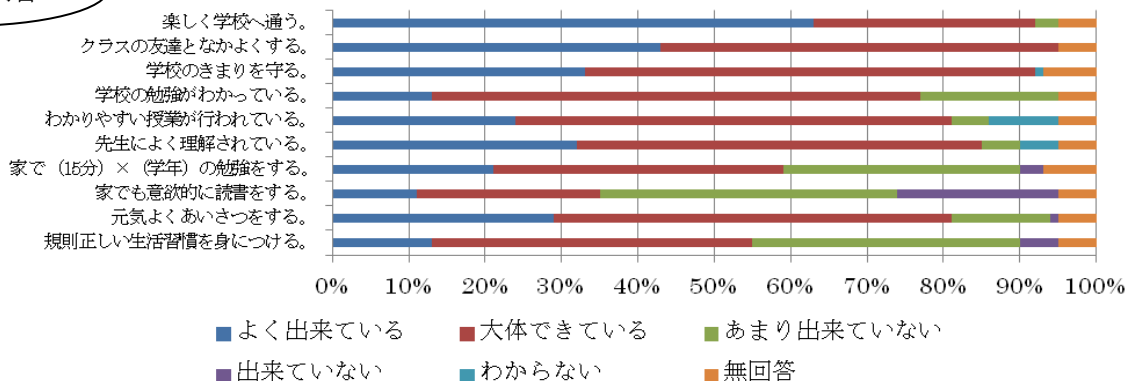
「実現度」・・・実際にどのくらい実現できていると思うか

本校の場合、回答数が少なく（全児童56名、家庭数41戸）、かつ相対的に肯定的な回答をいただいています。（下記の実現度のグラフの黄色は無回答です。）回収率は98%でした。ご協力ありがとうございました。

重要度の割合



実現度の割合



<考 察>

学校のきまり 前期のアンケート同様、高いポイントになっています。新校舎に移り、学校のきまりも変わりますが、学校のきまりを見直すと共に、きまりを守る八瀬の子を目指したいものです。

家庭学習・読書 前期同様、やはりこの項目が八瀬校の課題と言えます。読書については、前期よりもポイントが上がっています。前期評価の後、お家でも意識して取り組んでおられたのではないのでしょうか。また、家庭学習については、今回ご家庭からのご意見を、自由記述という形で取らせていただきました。

規則正しい生活について

規則正しい生活は、大変重要であるという認識はあるのですが、なかなか実践できない実態があるようです。本校では、生活リズム調べを年間2回行っていますが、そのデータを分析すると共に、ご家庭にも還元できるよう取組を進めていきたいと思えます。

家庭学習（15分）×（学年）を充実させるために

- ・ テレビとゲーム機を家に置いていないので、いつも読書をしています。いずれその生活が役に立つのでは、と思っています。
- ・ 朝6～7時の家庭学習が習慣になっています。2年生の朝、10分の学習からスタートしました。下校後は、学校の宿題のみなので、ゆっくり自由に過ごさせています。来年は夜にも学習時間を少し取りたいと思います。
- ・ 学習の習慣は、家庭でしっかりつけてあげることが必要だと思います。それなくして「勉強しなさい。」では意味もありません。
- ・ 自主的に内容を考えて宿題をする…というのがかなり負担の様で、毎日なかなか夜まで手がつけられない状態です。
- ・ 現在の宿題量は、ちょうどよいと思っています。
- ・ 読書をして、感想文を好きなように書くことをしています。父親にも関わってもらっています。

たくさんのご意見、ありがとうございました。大切な課題ですので、家庭読書の進め方と共に、学校でもいろいろな形でアドバイスができればと考えています。

その他、保護者の皆様のご意見（自由記述より）

たくさんのご意見をいただきましたので、紹介させていただきます。

- ・ 毎日楽しく元気に通わせていただいています。日々、帰宅してから学校での出来事を報告してくれます。学校で一人一人大切にしてくださり、充実した授業を受けることができていることがよくわかります。
- ・ 学年全般で感じるのは、通学中の挨拶があまりできないということです。これだけ地域が家族の様に見守っている意識環境にありながら、大変もったいないと思っています。
- ・ 読書を、借りてきてもしないので困っています。
- ・ 毎週1回「読書ノート」を書いて提出しています。
- ・ 担任の先生には、声かけや先生自身の活動の様子を見ることで、子どもたちのやる気を引き出してもらえ、場面がたくさんあったと思います。
- ・ 先生が子どもたちの個性をよく生かして授業を進めておられると思います。
- ・ 算数の授業中に待ち時間があるようです。何かしてもらえるとありがたいです。
- ・ 宿題をどうしても8時以降でなければできず、いやなことを毎日後回しにしてしまいます。一つ一つきちんと終わらせることができません。
- ・ 金管の部活動も1年間続けることができたのでよかったです。特に金管は、学校を挙げての取組なので、これからも続けられるように家族としてもサポートしていきたいです。
- ・ 金管だけでなく、以前のような合奏もしてほしいです。違う楽器にも触れたいと思っています。
- ・ 本人のやる気をどう起こさせればよいか、遊びとのメリハリをどうつけばよいか悩むことが多いです。
- ・ カタカナ・計算を反復学習させていただき、ありがたかったです。親がやるように言ってもなかなか聞く耳を持たないところを、宿題にさせていただき、本人もよく頑張って取り組むことができました。朝も進んで登校の用意ができるようになり、学校に通うという気持ちがずいぶん安定してきたように思います。

今後の取組に向けて

【確かな学力をつける】

今年度の校内研究である「算数科」において、「進んで学習し、自分の考えを表現する子」を目指した取組を進めています。その中で、子どもの学び合いを積極的に取り入れることで、「楽しい授業」「わかる授業」など、充実感の持てる授業を目指しています。

高学年になるほど、「算数が苦手」「わからない」という児童が多くなる実態が依然あります。特に5年生の「割合」では、苦手だという児童が多くなる傾向がある単元です。そこでサポート教員が教室に入り、複数の教員で授業を進めるなど、つまずきやすい児童のサポートにあたる取組もしています。

また集団としての話し合い活動を取り入れた授業を構築すると共に、個別ではノート指導も大切だと考えています。自ら学ぶ力を育てるために、子どもの発達段階や教科等、学習に応じた適切なノートの使い方を進めています。このことが、家庭学習につながればと考え取り組んでいますが、高学年の中では、あまりできていないと感じておられるご家庭も多いという実態が分かりました。

家庭学習は大切な学習の場です。(15分)×(学年)の時間を目安にして、取り組んでほしいと考えています。毎日の積み重ねこそが児童の学力につながりますので、ご家庭でのご協力もお願いいたします。学校におきましても、より身につくよい家庭学習について取組を進めていきます。



算数研究授業

【豊かな心を育む】



児童集会「大なわ大会」

子どもたちが自立し希望をもって主体的に生きていくためには、「自分のことが好き」という自己肯定感や、「自分はできる、役立っている」という自己有用感などをもつことが大切であると考えています。

子どもたちの自己肯定感や自己有用感を培うにはどうしたらよいか。自分を温かい雰囲気で受け入れてくれる集団の中で、教師や友達から認められたいという欲求が満たされる時、自己肯定感と自己有用感は高まると考えます。アンケートの結果から、「できていない」「あまりできていない」という回答もいただいていますので、日々の取組を再度見直していきたいと思っています。

八瀬小学校では、最高学年の6年生を中心とした取組を進めています。その一つが縦割り活動である「ともだちグループ」です。学校行事、児童会行事、集会など、高学年はグループをまとめ、低学年は大切にされています。

そして、「あんなお兄ちゃん、お姉ちゃんになりたいな。」という思いを一人一人が持つようになっていきます。「憧れられる6年生に」をモットーにした八瀬小学校の伝統が引き継がれ、そのことが「自分も大事、人も大事」につながっていくと考えています。このよき伝統を、八瀬小学校の誇れる特徴として、豊かな心を育む取組を今後も進めていきます。

【健やかな体の育成】

体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか、意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっています。これは、「生きる力」の重要な要素でもあります。運動を通じて体力を養うと共に、食習慣も大切になってきます。また、安全教育の充実も必要です。

11月からは、中間休みに全校でマラソンをし、12月の校内持久走大会につなげてきました。心の健康に関しては、発達段階に応じた性に関する指導、高学年では喫煙防止、飲酒や薬物乱用防止教育、携帯電話・スマートフォンのモラル教育などの充実に努めています。給食週間には、養護教諭による食育指導や、毎日の給食の大切さも指導の一つとして取り組みました。安全指導については、新校舎移転に伴い、2週にわたった避難訓練（防犯・地震）も設定しています。このように、将来においても子どもたち自らの力で「生きる力」となるよう取組を進めてきました。

子どもの健康や体力は、規則正しい生活から始まります。アンケートの結果から、「できていない」「あまりできていない」のポイントが高くなっています。学校と家庭が連携をし、少しでも「早寝・早起き・朝ごはん」ができるように取組を進めますので、ご協力をお願いいたします。



校内持久走大会

本校では、子ども・保護者・地域の皆様の願いをしっかりと受け止め、学校改善を図ることを目的に、学校評価を計画的に実施していきます。その結果を分析・考察し、よりよい学校づくりに役立てます。アンケートのご協力、誠にありがとうございました。